

国登録文化財

# 熱海「陽明館」を答申

## 昭和初期 別荘建築で歴史的価値

国の文化審議会が十六日、柴山昌彦文部科学相に答申した登録有形文化財（建造物）に、県内からは熱海市桃山町の昭和初期建築の別荘「陽明館」の一件

が盛り込まれた。県内にあ  
る国の登録有形文化財は二  
百三十五件となる。

陽明館は一九三九年、本  
州製紙の田辺武次社長が建  
てた別荘で、木造二階建て

瓦ぶき建築面積約百五十七  
平方メートル。個人の取得を経  
て、五八年にMOA美術館  
などを運営する宗教法人世  
界救世教（熱海市桃山町）  
が取得した。築七十九年で

二〇一七年に耐震工事をし  
た建物は、良好な状態を保  
っている。現在は華道や茶  
道の発表の場などに用いら  
れている。

山のふもとに立地し、

一、二階とも相模灘を望む  
南側に、それぞれ和室二室  
が並ぶ。昭和初期の別荘の  
特色とされる和洋折衷の造  
りで、日光をふんだんに取  
り入れられる開放的な構  
造。丸太などを多用し、し  
ゃれた数寄屋風の造りとな  
っている。熱海市教育委員  
会の文化財担当者は「大正  
から昭和初期に盛んだった  
熱海の別荘建築として、歴  
史的価値のある建物」と説  
明した。

世界救世教の岡田福蔵・

広報委員会事務局長は「歴  
史的な文化遺産として顕彰  
されることを大変喜ばしく  
思う。保存に努めるととも  
に、多くの人に魅力と価値  
を感じてもらいたい」と話  
し、今後は一般公開を検討  
するという。（中谷秀樹）



国登録有形文化財に登録される「陽明館」＝いずれも熱海市で



相模灘を一望できる陽明館の2階